

園長だより「みんなが金メダル」 運動会特別号

秋晴れの空の下、運動会（にじ・ほし・そら・ゆめ組）が大きな事故なく無事に終わりました。何事もないのが当たり前。でも、これがなかなか難しいのです。私たちは常に子ども達の安心・安全を第一に考えております。子ども達の頑張る姿を見れたことはもちろんですが、運動会が大きな事故なく終わったことも私たちにとっては大きな喜びでもあるのです。

さて、保護者の皆さんにとってはどのような運動会になったのでしょうか。開会式のご挨拶でもお願いいたしましたが、お子さんの成長を感じるアンテナの感度を良くして、ご参観いただけたことと思います。昨年の運動会の頃のお子さんを、進級した4月の頃のお子さんを、1か月前のお子さんの姿を思い起こしていただくと、お子さんの成長度合いが良くわかると思います。お子さんは日々、成長していきます。アンテナの感度をさらに上げていただければ昨日より成長したお子さんを感じることもできるようになりますよ。

運動会は昔から保育園・幼稚園・小学校などで行われてきた恒例の行事です。中学校からは体育祭とか陸上競技会というような名称に変わり、純粹に陸上競技のプログラムが増え、運動会とは少し趣旨が変わったものになってきます。保育園・幼稚園・小学校の運動会には団体演技というものがあります。運動あそびやかっこやりリレーもさることながら、これを楽しみにしている方が多いのではありませんか。少し前までは小学校の運動会で最後を締めくくるのは6年生の団体演技「組み立て体操」というのがお約束のようになっていました。ただ10年ほど前から組み立て体操の技に対する規制が厳しくなって、以前のように大胆な技に取り組みなくなってしまうようになりました。今は「南中ソーラン」「エイサー」「阿波踊り」「フラッグ」というような演技に変わってきていますし、最近は運動会の簡素化ということで団体演技そのものをなくしている小学校も多くなりました。

ゆめ組の子ども達は保育園生活最後の運動会でした。城東ちどり保育園で初めて「よさこい鳴子踊り」に取り組んでくれました。高知の「よさこい祭り」は8月9日の前夜祭に始まり12日の後夜祭まで、踊り子を先導する地方車（じかたしゃ）から流れる大音量の音楽に合わせて鳴子でリズムを取りながら、それぞれの団体が工夫した振り付けで踊ります。この4日間、高知は祭り一色になり、鳴子の音に酔いしれます。ゆめ組の子ども達も鳴子のカチッカチツという小気味よい音に合わせて上手に踊ってくれました。簡単そうに見えますが、鳴子を鳴らすのは案外難しいものなんですよ。リレーはそれぞれの思いをリングバトンに託して、最後まで「つなぐ」という気持ちを持って頑張ってくれましたね。ゆめ体操も一人一人が一生懸命、自分の力を出し切ってくれました。「やー！」ゆめ組の子ども達の元気な声が秋の高い空に響き渡りました。

そら組の子ども達はミッキーマウスになってかわいらしく踊ってくれました。最後、パラバルーンにも取り組みました。どうでしたか。みんなの気持ちが一つになった大きなパラバルーンが2つ、フィールドに咲きました。来年度の運動会でゆめ組になった子ども達

はさらに成長した姿を見せてくれると期待しています。

ほし組の子ども達は小さなかawaiiい忍者になってくれましたね。最初のうちは並ぶのも大変だった子ども達がラインにそって上手に並べるようになりました。かawaiiダンスも良かったけれど、これも大きな成長ですね。

にじ組の子ども達は運動あそび。4月の頃は歩くのも危なっかしい様子でしたが、今日はしっかり巧技台を上がったたり、飛び下りたり、鉄棒にぶら下がったり……。みんないお顔で運動あそびを頑張ってくれました。

城東ちどり保育園の子ども達はみんな自分の力をしっかり発揮してくれたように思います。走っている途中で転んでしまったり、少し不安になって泣いてしまったりしたお子さんもいました。でも、みんな一生懸命でした。オリンピックや競技会では着順と記録がついて回ります。結果的に1位になればその栄誉を称える意味で金メダルが授与されることとなります。でも、子ども達が主役の運動会に着順や記録はさほど重要なことではありません。まだまだ暑い日が続く中、子ども達が運動会に向けてグラウンドや保育室で繰り返し練習してきたこと。そして運動会当日、保護者の皆さんの前で緊張しながらも一人一人が最後まで一生懸命走ったり、運動あそびをしたり、ダンスをしたりしたこと。ここに重要な意味があり、大きな価値を見出すことができると思っています。だから、子ども達みんなが金メダルということですよ。間違いありません。

運動会当日は皆さんから子ども達に対する賞賛の拍手をたくさんいただきました。本当にありがとうございました。子ども達にとって、皆さんからいただいたたくさんの拍手は成長するための大きなエネルギーになりました。一生懸命頑張って何かをやり遂げたことに対する賞賛の拍手は子ども達の達成感を大きく増幅させます。そしてその達成感は自己肯定感（ありのままの自分を受入れ、好意的に肯定する気持ち）につながります。自己肯定感が高くなると自尊感情が育まれていきます。自分を大切に考えることができるということは、自分以外の人やものを大切に考えることができるようになるということです。当たり前のことですが、自尊感情は「明日から自分を大切にするんですよ」というような口先だけの理屈ではなかなか定着しません。一朝一夕にいかないことは積み重ねていくしかありません。城東ちどり保育園の子ども達にはこれからも色々な取り組みの中で今回の運動会で味わったような達成感や自己肯定感を何度も何度も体感させてあげたいと考えています。その積み重ねによって、城東ちどり保育園の子ども達に「生きる力」のベースになる自尊感情を育てていくつもりです。

どうかこれからも城東ちどり保育園の保育・教育にご理解をいただき、引き続きのご協力をお願いいたします。